



代表取締役
下川 和歩 氏

(株) 楽喜

地域住民が交流できる総合サロンをオープンした。そこには、高齢者介護サービスに加え、障害者福祉施設として就労支援B型事業所を設置。介護と障害者福祉と地域住民を融合する取り組みを目指す。

平 成17年「デイサービスあゆむ」を開所。長く介護職に従事する母が、福祉施設で施設長を務める父に「理想の介護を提供したい」と相談し背中を押されたことがきっかけになった。それを聞き、介護の勉強を始めヘルパー1級を取得し、母とデイサービスの事業計画を策定。母とその職場の仲間と自身とで設立し、利用者1人からスタートした。

24歳の自身にとって、どうにもならない制度の壁があり、厳しい業界だが、この道30年の母から多くを学び、乗り越えることができた。利用者は、ポスティングやケアマネージャーからの紹介、地元消防団に参加して口コミで増やしていく。

「一人ひとりの利用者を大切にする」をモットーに、手厚いサービスが

高い評価を得て、翌年には「デイサービスあゆむ福田の家」、追って介護相談事業所やヘルパーステーションなど次々とオープンした。

高齢化が進み、介護需要は拡大を続け、異業種からの参入で競争は激化する一方で、事業所は飽和状態で、入居率の低い施設もある。将来にわたり、選ばれる事業者となるために、高品質のサービスの提供、多用なニーズへ対応、さらに地域に密着した存在であることも求められる。

そこで、利用者の幅広いニーズにワンストップで応えるため、既存の施設を統合し、高齢者、障害者、地域の住民誰もが交流できる「総合サロン」の開設を検討。障がい者の社会的自立に向けた「就労支援B型事業所」を新たに開設し、ピザの移動販売サービスによる就労支援を行う。ピザ窯を設置し、ものづくり補助金で

DATA

所在地／岡山市南区福田164-9
設立／平成17年1月6日
資本金／1,000万円
従業員数／115人



移動販売用のトレーラを導入し敷地内に調理・飲食スペースを設けた。

経営革新計画の策定で、事業の進捗と資金の流れを十分シミュレートできた。借入の特別金利は、施設建設の大きな投資に、メリットがある。

介護と障がい者福祉サービスの相乗効果で、社会的自立を支援したい。効果が実感できれば、雇用契約を結ぶ「就労支援A型事業所」も作り、より広く地域の住民とともに開かれた交流の場を作っていくことが目標。

担当者のコメント



中小企業支援課
サブマネージャー
谷口 勝彦

平成23年度に1回目の計画承認を受け、今回が2回目。取引先金融機関を介して財団に相談をいただいた際、今後の事業の道筋を立てるために経営革新計画の策定を勧めました。今回は、同時にものづくり補助金の計画策定も並行して行いました。1回目のノウハウを充分に生かして計画を策定され、補助金の採択も受けることができました。計画経営の実施と、利用できる支援策の有効活用により、事業実施に努められています。



①ピザの移動販売



②マルゲリータ



③自社農園で苗付けや種まき、水やり、収穫などを行う